

あいさつ

卓 新平
龔 穎 訳

日本からお越しになりました尊敬する川田洋一所長、及び日本の皆さま、尊敬する季羨林先生、尊敬するご出席の皆さま、本日、中国社会科学院世界宗教研究所と日本の東洋哲学研究所の共同主催により、学術シンポジウム「大乘仏教と現代文明」を、長期にわたる努力を経まして、この北京の地で開催する運びとなりました。私は謹んで、世界宗教研究所を代表いたしまして、ご出席の皆さまに熱烈な歓迎の意を表したいと思います。

さて、北京は炎天の夏から、新涼の秋に入りました。

秋は収穫の季節であります。この季節に、私どものシンポジウムを開催することは、必ずや豊かな成果をもたらすであろうと固く信じております。

皆さまもご存知の通り、東洋哲学研究所は、日本における著名な学術研究機関であり、数多くのレベルの高い研究者を擁しております。当研究所を設立した創価学会は、日本最大の宗教団体であり、世界各国・地域に海外拠点をもっております。

創価学会は、池田大作先生のご指導のもと、伝統仏教の教義と現代社会を密接に結びつけ、仏法に新しい

生命力を吹き込んでくれました。創価学会は、現代仏教における成功の範例でありますので、豊富な経験をもっておられます。今日、私どもが、ここで「大乘仏教と現代文明」というテーマをめぐって討論できまことは、とても有意義なことでもあります。

中国政府の首脳は、日本を訪問した折、「古い友人を忘れず、新しい友達をつくり、いつまでもいい友人であってほしい」と語りました。池田大作先生と創価学会の会員の方々は、中国の古い友人とも言えると思います。

中日国交正常化以前から、池田先生は、日本政府に中国との国交正常化を呼びかけてくれました。また、中国の国連における議席の復帰のためにも努力を払ってくれました。池田先生が創設された公明党は、二度にわたって訪中し、両国の国交正常化のために積極的な貢献をされました。中日国交正常化以降、池田先生は、一九七四年には二度も訪中され、周恩来総理と会見し、友好を深められました。その後も、池田先生は幾度も訪中され、中国の人々と文化交流を推進して

くれました。

とくに、一九九二年の十月十四日、池田先生は、わざわざ中国社会科学院を訪問され、「二十一世紀と東洋文明」というテーマで、学術講演をしてくださいました。この訪問は、今回の学術交流のための基礎となっております。

池田大作先生は、長年にわたって、中日文化交流のために、際立った功績を挙げてくれました。これに対する感謝を表すために、中国社会科学院、北京大学、復旦大学などの研究機関や大学から、名誉教授などの名誉称号が贈られています。

また、私どもは、次のようなことにも注目しています。つまり、日本で極少数の右翼勢力が、民衆の気持ちを汲むことなく、様々なことをやっていた時に、池田先生は、民衆の代表として、常に正義の呼びかけを発してこれたということです。したがって、創価学会は、中国人民の心の中に、終始、日本の平和と安定を支えている勢力の一つとして映っています。

私たち中国の先人は、次のように言っています。「朋

有り遠方より来たる。また楽しからずや」。一昨年、私どもは、東京で第一回目のシンポジウムを開催いたしました。本日、ここで新しい友人や古い友人と再会できますことを、私は心から歓迎いたします。

最後に、今回のシンポジウムの大成功をお祈り申し上げるとともに、ご出席の皆さまのご健康をお祈り申し上げます。

ありがとうございました。

(たくしんべい／中国社会科学院世界宗教研究所所長)
(訳・きょうえい／中国社会科学院哲学研究所副研究員)